経営比較分析表（令和3年度決算）

奈良県　明日香村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**
-	75.06	33.11	88.00	2,640

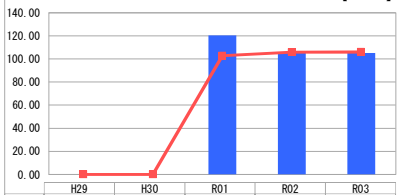
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
5,381	24.10	223.28
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km²)**	**処理区域内人口密度(人/km²)**
1,770	1.19	1,487.39

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

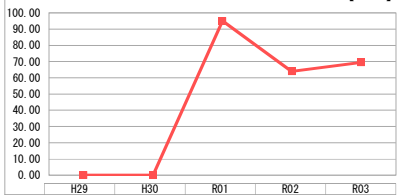
【105.35】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	120.63	105.21	105.43
平均値	-	-	102.73	105.78	106.09

②累積欠損金比率(%)

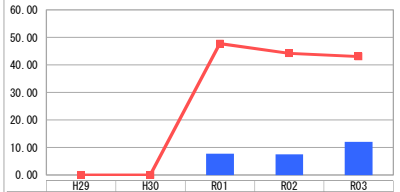
【63.89】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	0.00	0.00	0.00
平均値	-	-	94.97	63.96	69.42

③流動比率(%)

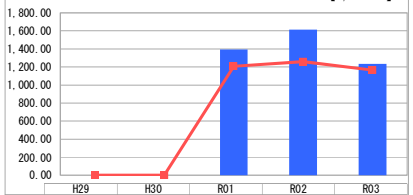
【44.07】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	7.82	7.52	12.06
平均値	-	-	47.72	44.24	43.07

④企業債残高対事業規模比率(%)

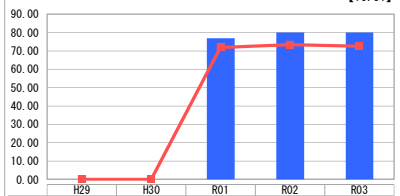
【1,201.79】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	1,396.91	1,616.31	1,236.42
平均値	-	-	1,206.79	1,258.43	1,163.75

⑤経費回収率(%)

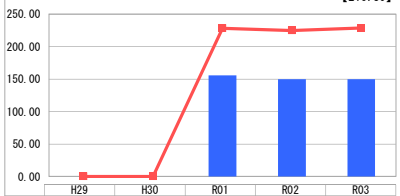
【75.31】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	76.97	80.00	80.00
平均値	-	-	71.84	73.36	72.60

⑥汚水処理原価(円)

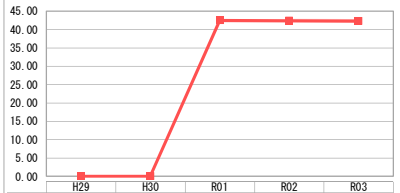
【216.39】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	155.91	150.00	150.00
平均値	-	-	228.47	224.88	228.64

⑦施設利用率(%)

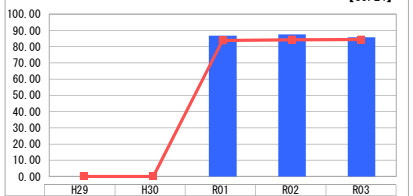
【42.57】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	-	-	-
平均値	-	-	42.47	42.40	42.28

⑧水洗化率(%)

【85.24】

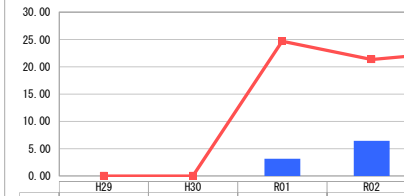


	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	86.84	87.56	85.76
平均値	-	-	83.75	84.19	84.34

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

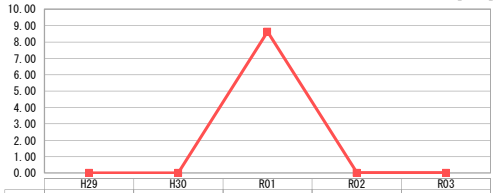
【25.87】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	3.19	6.42	9.67
平均値	-	-	24.68	21.36	22.79

②管渠老朽化率(%)

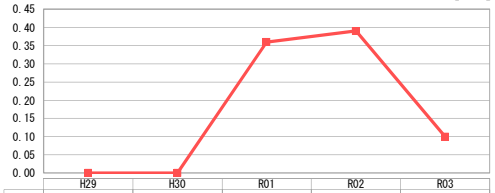
【0.01】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	0.00	0.00	0.00
平均値	-	-	8.62	0.01	0.01

③管渠改善率(%)

【0.15】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	-	-	0.00	0.00	0.00
平均値	-	-	0.36	0.39	0.10

※　「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回っているものの、一般会計からの繰入金依存度は高く、③の流動比率が類似団体平均を下回る数値となっている。今後も経費削減に努め、改善を図っていく。
④企業債残高対事業規模比率に関しては、事業開始年度も浅く類似団体平均より高い水準となっているが、事業については概成しており、今後改善していく見込みである。
⑤経費回収率は100%を下回っており、汚水処理費に係る費用を一般会計からの繰入金により賄っている状況であるため、引き続き経費削減に努め、改善を図っていく。
⑥汚水処理原価は類似団体平均以下となっているものの、今後の有収水量の減少等により数値の上昇も考えられる。
⑦施設利用率は、流域下水道への接続であり該当数値はない。
⑧水洗化率
平均値を上回る数値となっているが、今後も上記経営状況の改善を図るため、普及促進に努める。

2. 老朽化の状況について

整備後経過年数が約30年となり、現在更新事業は行っていないが、本年度より公共下水道事業と併せて、ストックマネジメント計画を策定したうえで、施設の状況を把握し、経営状況を見据えたうえで、効率的な老朽化対策及び、施設管理を行っていく。

全体総括

経営状況については、昨年とほぼ同水準にて推移している。
一般会計からの繰入金依存割合が大きく、その対策として使用料収入の増加を図るべく、個別訪問や広報活動を行い、水洗化率の向上に向けた取組みを継続的にしてくことで流動比率等の改善を図る。
また、今後の更新事業をはじめ残整備について、経営状況とのバランスをとりながら計画的な実施を行い、長期的な視点で経営基盤の強化を図っていく。